

保護者の皆さまのご協力も大切です

子供たちの学習を補助 – 算数：足し算、引き算、 掛け算、割り算

子供たちは、日常生活や遊びを通じてごく自然に数と接します。例えば小さな子供でも、一人ひとりの持ち分が同じになるようお菓子を分けたり、あるいは友だちの持ち分と自分の持ち分を加えて、合計数を導き出すことができます。私たち大人は、子供たちが早く容易に計算する方法を見つけ出せるよう手伝ってあげるべきです。



子供たちは、どのようにして数を学ぶのでしょうか？

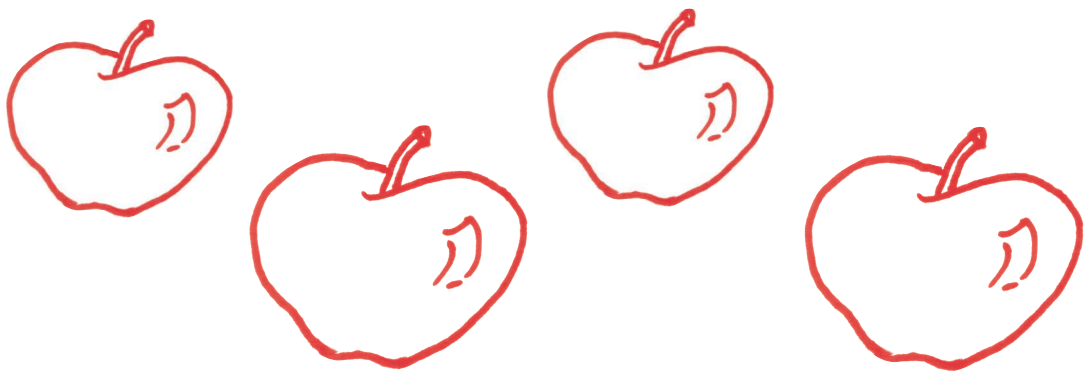
数を学び始めたばかりの時は、足したり、引いたり、掛けたり、分けて（＝ 割って）する対象の実物が必要です。りんご、みかんなど何でも構いません。子供たちは、そうした対象物を見ながら、一つひとつ数えていく過程を経ていくのです。

まずは子供たちが大きな数から数え始め、次に小さな数字を足したり、引くことを学ぶよう教えてあげましょう。また、実物を見ることばかりに頼らないですむように、子供たちが物体の集まりや数量を頭の中でイメージできるよう助けてあげることも大切です。物体の集まりを頭の中で「描ける」ようにすることは、子供たちが「九九」などの算数表を学ぶ前に、かけ算やわり算等を理解することを助けます。

保護者の皆さまのご協力も大切です

家庭ではどういったお手伝いができるでしょう？

- ・ 「へびとはしご」など、さいころを2つ用いるボードゲームで遊みましょう。さいころを振り、出てきた2つの数を足すよう促してみてください。大きい数字からの数え方を教えてあげましょう。
- ・ トランプ遊びはいかがでしょう。「ブラックジャック」では、各プレイヤーが最初に2枚のカードを持って合計数を足すので、計算の練習に大変効果的です。合計数が21を越えないよう注意し、場札からカードをもらいながら最大のスコアを獲得するのがこのゲームの目的です。
- ・ お子さまとみかんなどの果物を一緒に食べ、出てきた種の数足してみましょ。
- ・ 買い物にお出かけの際にも計算練習ができます。あといくつ必要か、お子さまに尋ねてみましょう。「今りんごを6つ持っているけど、10個買って帰るにはあと何個いるかな？」



- ・ 散歩にお出かけの際、通りに並ぶ家々の番地を見るよう促します。次の家は何番地になるか、当てさせましょう。
- ・ 食卓に1人分だけのお膳を用意し、家族の残りみんなのお皿を揃えるよう頼んでみましょう。あとお皿が何枚必要か尋ねてみましょう。
- ・ まずケースに入った卵の数を数え、次にいくつか取り出した後の数も数えます。お子さまにいくつなくなっているか尋ねてみましょう。
- ・ 目次がついている本を読んであげましょう。まず特定のページにあるお話や一章を探し、次のお話まで何ページあるか尋ねます。

保護者の皆さまのご協力も大切です

- スキットルズ（ボウリングに似たゲーム）をお子さまとお楽しみになってはいかがでしょうか。使用済みのトイレットペーパーの芯とか、空のプラスチックボトルでピンの代用ができます。何本倒れ、何本残っているか尋ねます。誰が勝ったか見るために、倒れたピンのスコアもちゃんと記録して見せてあげましょう。
- 数が歌詞に含まれている歌と一緒に歌いましょう。次の節を歌う前に、出てくる数を尋ねてください。
- ドライブにお出かけの際、隣町までの距離を示した道路標識を指さしてあげます。郊外では、距離を示す標識は、5kmごとに置かれています。お子さまに次の標識は何kmとなっているか尋ねてみましょう。
- 家族でお食事の際、お子さまに配膳を手伝わせてみましょう。一人2切れずつ行き渡るようにするには、ピザを何切れに分ければよいでしょうか？
- お子さまに、他の人たちとものを均等に分けるように頼んでみましょう。
- 袋に入った貝殻や、大きなびんに入ったボタンなど、たくさん集められたものの数を数えさせます。素早く簡単に数えられる方法があるかどうか尋ねてみましょう（例：5個ずつ数える）。
- カップケーキをレーズンやチョコレート（スマーティーなど）で飾りましょう。それぞれのケーキにレーズンやスマーティーを同じ数ずつのせる場合、それらが全部でいくつ必要かお子さまに尋ねてください。
- 製氷皿に乗った氷の数を数えさせましょう。お子さまが一つずつ数えていたら、製氷皿の列ごと数えるように促します（通常一列に2個ずつとなっているはずです）。

